

10万人の

ギャラリー

朝日町にお住まいの福田和美さんの「ミニきもの」を紹介します。

福田さんは、趣味で和風ドールズハウス（旅館の模型）を制作し、その中に小さな着物を飾っていました。作品を見た友人から「インテリアとして部屋に飾るサイズの着物を作ってみてはどうか」と勧め



▶福田和美さんの作品
「ミニきもの」(寸法 縦45×横30cm)

められたのがきっかけで、「ミニきもの」の制作を始めました。

福田さんが作る「ミニきもの」は針と糸を使いません。両面テープで本物の着物と同じように仕立てていきます。一番難しいのは、背ぬいを中心にして6面の柄を合わせる場所。「柄合わせがステキ」と褒められると、とてもうれしくなるそうです。

完成した作品は、手作りの衣桁スタンドにかけて玄関やリビングに飾り、訪問者を迎えています。タンスの中に眠っている愛着のある着物などを利用して制作しているという福田さん、これからも思い出さずばこの布で「ミニきもの」作りを楽しんでください。

★作品募集★

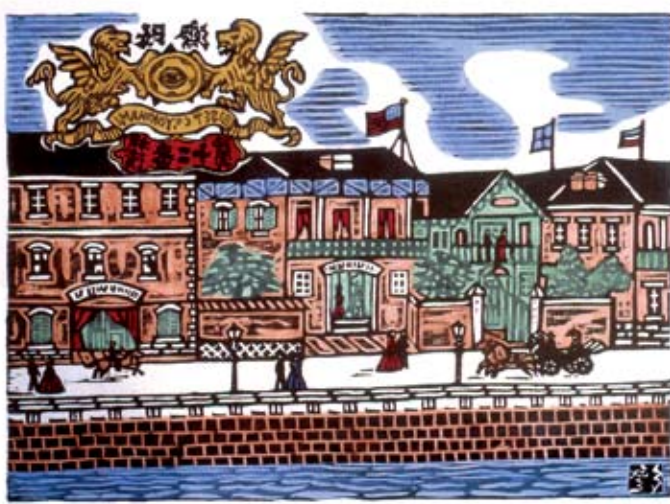
10万人のギャラリーの作品を募集しています。絵画、工芸、木版画などみなさんの力作をお寄せください。問い合わせ先 広報広聴係

☎(63)2128

作品介绍 133

川上澄生の世界

この作品では、レンガや石造りの洋館が立ち並ぶ横浜の海岸通りを、洋装の人物たちが行き交う様子が描かれています。馬車の音とともに、「文明開化」が横浜の街中を走っていく息遣いが、伝わってきます。実はこの作品は、「横浜絵」と呼ばれる、開港当時の横浜を舞台に異国風俗を紹介した浮世絵の作品を模して制作されたものです。澄生は、文明開化や南蛮をテーマにした作品を数多く制作



しました。これらの作品には、「横浜絵」や「長崎絵」から創作のヒントを得たものがあります。横浜に生まれた澄生にとって、「文明開化」は心のふるさとでした。彼は、文明開化を主題にした作品に登場する人物に、父母や祖母の姿を重ね合わせていました。現在開催中の企画展では、澄生の文明開化へ寄せる郷愁を味わっていただけることでしょう。

※1：三代広重作の《横浜海岸通り之真景》

※2：江戸時代唯一の開港地長崎のオランダ人や中国人の風俗などを描いたもの
学芸員 早川未央

この作品は2階展示室で開催中の「文明開化の川上澄生―澄生が描く明治への想い―」展に出品しています。

川上澄生美術館からのお知らせ

問い合わせ ☎(62)8272

1階展示ホールでは31日(日)まで「版画の年賀状展」を、2月2日(火)から「これまでの木版画大賞Ⅲ」を開催しています。

《横浜十二番》

一九五四年(昭和二九)木版墨刷 手彩色 紙
(寸法 縦17.8×横16.3cm)